

第19回 通常総会 報告

2023年5月13日(土) 午後1時30分から第19回通常総会を「子どもの居場所」(日光市今市316-4)にて開催しました。予定時刻になり、司会者 丸本香さんが開会を宣し、議長には福田尚史さんが選任されました。

正会員数52名、出席正会員37名(うち表決委任者25名)により定足数「正会員総数の2分の1以上」を満たすことを確認し、議事が始まりました。事業報告および新年度の事業計画について、

- 第1号議案 2022年度事業報告の承認
- 第2号議案 2022年度収支決算の承認・監査報告
- 第3号議案 2023年度事業計画案
- 第4号議案 2023年度活動予算案

が出席者の拍手で承認されました。その後、本年6月30日をもって役員全員が任期満了となるため、理事長より役員重任および退任の提案がありました。

- 任期満了により退任(理事) 中島直弥
- 理事(重任) 葉原真佐美、白井佐智子、手塚郁夫、西尾敬子、福田尚史、丸本香、村上幸子、吉成勇一
- 監事(重任) 大久保 みどり

以上の提案が、出席者一同の拍手により承認されました。新理事および新監事の任期は、2023年7月1日から2025年6月30日までとなります。中島直弥さんは報徳会館時代から居場所のスタッフに参加され、2013年からは理事として活動を支援いただきました。この場を借りて、感謝いたします。

今回の総会で承認された2022年度事業の概要および2023年度事業について、以下に要約いたします。

(1) 居場所の提供と学びの場の運営

日光市委託事業「日光市子どもの居場所・学びの場」の10年目が終了しました。2021年度同様に学校長期休業中の平日も居場所を開所し、スタッフ2名の体制で実施しました。コロナ感染症についてはマスク着用、風邪の症状のチェック、体温測定など基本的な対策を行いながら、無事に1年を過ごすことができました。

居場所登録者数は10名(小学生6名、中学生4名)および高校生以上4名でした。開所日は232日、延べ336人(小中学生:221人、高校生以上:114人)の通所がありました。来所者はそれぞれ自分のペースで活動できたように思います。食事会「つくって食べよう!」は少人数で実施していましたが、「第6波」以降はお休みしています。

今年度は居場所を利用したイベント開催や食事会なども感染状況を見ながら実施していきたいと考えています。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した学び

不登校傾向、発達障がいを持つ子を対象とした「学びサポート」は毎週金曜日午後7時から9時まで日光市民活動支援センターで実施しました。継続参加は中学生2名、期間中に若干名の見学者がありました。本人の希望教科について学習支援を行いました。

参加希望の方はぜひ「なんにわ」までご連絡ください。

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学び支援

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/> を公開しています。定期的な更新により、居場所の紹介、活動の紹介、自然環境についての情報などの発信を行っています。電子会議用のカメラおよびマイクを導入し、面接シミュレーションなどを試みましたが、現実の場面での運用には至りませんでした。

(4) 教育についての相談や情報提供活動

不登校相談、教育についての悩み相談などに随時対応しました。相談件数は47件、訪問者は128名でした。昨年より多く、関心の高さがうかがえましたが、通所人数の増加にはつながりませんでした。「利用者数集計表」をご参照ください。通信「なんとなくのひろば」を3か月間隔で4回発行、各号250部印刷し、会員および日光市内の小中学校に配布しました。

(5) 青少年、障がいをもつ人の相談および就労支援

感染症のため施設見学は難しく、実施を見送りました。理事によるベリー会への参加、「ひきこもり相談センター・かがやき」、「NPOだいいょうぶ」など地域支援団体との連携を取りました。

(6) 自然環境の中での学び、自然環境保全活動

「今市の水を守る市民の会」との共催行事は中止いたしました。環境測定班の放射能測定は随時継続しました。

(7) 障がいの理解および啓発

「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼まで「子どもの居場所」で開きました。気軽な雰囲気が集まり、子育ての悩みを話し合う時間となっています。3月の勉強会は今回も開催を見送りました。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

さくらそうは2014年5月から計画相談を開始し、9年目の活動を終えました。2022年度は相談員1名で100名ほどの計画作成・モニタリング・担当者会議を実施しました。延べ175件(前年より36件減)の計画作成とモニタリング、12件の担当者会議を開きました。新規の方が9名だったのに対し、日光市内に新たに立ち上がった相談事業所への移動希望の方が14名、他に亡くなった方およびサービス終了の方が9名ありました。定期的な更新、モニタリング以外に、関わる方の状況の変化への対応が多くありました。来年度も引き続き、担当している方より良い生活や希望が叶えられるよう、努めていきたいと思えます。

2014年5月から市役所1階社会福祉課「日光市障がい者相談支援センター」に葉原が出向しています。2022年度はその前の年より多い2053件の相談を受けました。忙しい1年間でしたが、とくに印象に残っているのは、本人が50歳代になってからの新規相談です。80歳代の親御さんは障がいを否定しますが、幼少の様子を知っているお姉さんからの「今後を考え手帳を取らせたい」との希望。その方にキーパーソンになっていただき、3名の療育手帳取得から障害年金の手続き、福祉サービスへとつなぎました。親は認めずに問題を先送りさせるだけ。姉弟たちが自分の子どもたちに迷惑かけないよう模索し「相談支援センター」を訪れる、というケースを支援しています。本年度も同様のメンバで活動を続けています。(詳細は「通常総会資料」)

☆ 活動日誌

- 4月19日(水) 2022年度会計監査 実施
- 4月20日(木) 通信「なんとなくのひろば」第71号 発行
- 4月23日(日) ベリー会(20周年 記念講演会「8050問題」)
- 5月 2日(火) 第113回 理事会
- 5月 8日(月) 茶話会(第127回)
- 5月13日(土) 第19回 通常総会
- 5月17日(水) 教育支援センターとの打ち合わせ会
- 5月26日(月) 2022年度 活動報告書を提出(日光市地域振興課)
- 6月 6日(火) 居場所スタッフミーティング
- 6月12日(月) 茶話会(第128回)
- 6月24日(土) 川むしたんけん隊(室瀬行川橋にて、共催:今市の水を守る市民の会)
- 7月 1日(土) 第114回 理事会

さくらそう関連

2023年度 日光市相談支援専門員連絡会

4月26日(水) 第1回日光市相談支援専門員連絡会 前年度振り返り・今年度計画

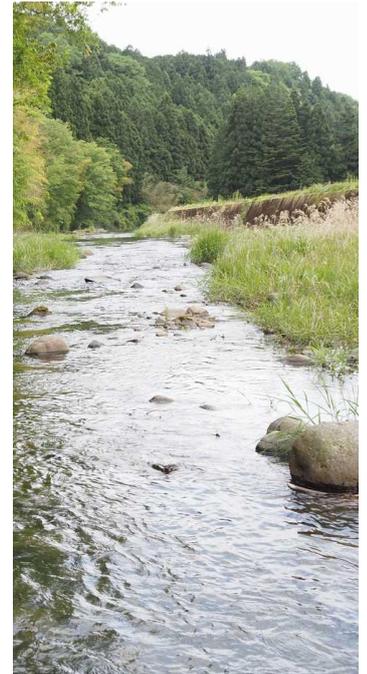
5月24日(水) 第2回日光市相談支援専門員連絡会

6月28日(水) 県西地域連絡会

2023年度 日光市障がい者自立支援協議会

4月13日(木) 第1回ケース・事例検討会議 近藤式事例検討

5月11日(木) 第2回ケース・事例検討会議 近藤式事例検討



6月半ばの行川。下見に行って撮影。これくらいの水量だったらよかったです...一週間の雨で水かさが増えてしまいました

川むしたんけん隊 @ 行川 室瀬行川橋にて

《今市の水を守る市民の会》と共同開催

毎年5月末から6月に開催している「川むし」。コロナでお休みが続き、前回2019年6月の実施から4年目の開催となりました。川岸の草刈り、駐車スペースの確保など、近くの農家の方の協力をいただき、塚崎庸子さん(今市の水を守る市民の会)の案内で、おとな・子ども合わせて12名が「川むしたんけん」を楽しむことができました。

準備の遅れなどで梅雨に入ってからの日程になってしまい、朝はお天気だったのですが、10時半ごろからは本降りに。協力者のみなさま、雨の中、たいへんお世話になりました。以下は塚崎さんからいただいた当日の記録です。(手塚)

6月24日(土) 午前9時30分

気温 23℃、水温 18℃、川の流速 40~50cm/秒

見つけた生き物を環境省の定めた指標生物で分類。

水質階級Ⅰ(きれいな水) []内は見つけた生き物数

カワゲラ類 [4]、ヒラタカゲロウ類 [3]、

ヤマトビケラ類 [1]、ヘビトンボ [7]

水質階級Ⅱ(ややきれいな水)

カワニナ類 [4]、コオニヤンマ(ヤゴ) [8]

水質階級Ⅲ(きたない水)

水質階級Ⅳ(とてもきたない水) どちらもいませんでした
その他、見つけた生き物

チラカゲロウ、モンカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ

ヤゴ: オニヤンマ、サナエトンボ、コヤマトンボ

トンボ成虫: ミヤマカワトンボ

魚: アブラハヤ、カジカ

きれいな水に住む虫の数がとても多かった。指標生物以外の生き物もたくさん見つかりました。この地点の水質は「きれいな水」です。前週の雨で流されてしまった虫も多かったのではと思います。(塚崎・今市の水を守る市民の会)



上: はじめに、「川むし」採取について塚崎さんの説明を聞きました。
下: いつもより水量が多いかな? 流速を測っています。



下: 10時半ごろ、雨が落ちてきたので説明に切り替え、採取した川むしを分類、個体数を数えました。



なんとなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その 62

細雪 谷崎潤一郎 新潮文庫(上・中・下巻)

谷崎の作品、気にはなっているけれど「刺青」や「春琴抄」くらいしか読んだことがない。谷崎は「エッチ」なる言葉を発明した人と、むかしどこかに書いてあった気がするのだが、これはどうも誤りらしい。間違った情報を長く信じていると、そう思い込んでしまうものだ。

それはそれとして、吉本隆明「日本近代文学の名作」という本がある。日本の作家24人についての小さなガイドブックである。いつから文庫棚に並んでいたのか、ふと手に取ったら、「谷崎潤一郎の中期以降の作品では『細雪』(ささめゆき)がいちばん優れている」に引っかかった。吉本によると、来日時にテレビ出演したサルトルは、現代文学で良い作品を聞かれ「細雪」と答えたという。耽美主義の谷崎は吉本にとっても「理解しにくい作家」らしく、私も「ちょっと」という感じで敬遠しているところがあった。けれど、あのサルトルも評価していることに刺激され、読んでみることにした。

「ロリータ」の作者、ウラジーミル・ナボコフによると、小説はおとぎ話である。読者は登場人物とともに世界を思い描き、物語空間での体験を楽しめばよいという。「細雪」はそんな読み方に最適の小説である。舞台は大阪船場。裕福な蒔岡家に生まれた4人姉妹それぞれの日常が、ゆったり進む時間とともに描かれ、戦争に向かう時代が影を落す。上流階級のヒロインたちと、そこに入りする雑多な人々がどう考え行動するのか。格式高い一族が社会の変化の中で没落に向かう様子をのぞき見しているような臨場感に、つい読み進めてしまう。中巻前半の阪神大水害の描写にはノンフィクションを読むような迫力である。名家ならではの贅沢の記述は、戦時にそぐわないと、軍によって印刷・配布が止められたが書きつづけた作品という。読後、しばらく経った今も、鶴子、幸子、雪子、妙子、4姉妹の名は言うことができる。ということは、よい小説なのだろう。

居場所に置いてある高校受験参考書「5科目まとめ」をパラパラめくっていたら、名作紹介欄に「走れメロス」や「夕鶴」に並んで「細雪」が入っていた。「大阪船場の旧家の4人姉妹の人間像と生態を王朝風・絵巻物風の情緒や手法をただよわせて描いた作品」とある。なるほど、「細雪」は「王朝風…」であることを受験対策として記憶しなさいということらしい。「細雪」下巻巻末の年譜によれば、谷崎は1939年から数年かけて「源氏物語」の現代語訳を刊行し、その後「細雪」の執筆を始めたという。古文の「源氏物語」には何度か挑戦したが、挫折したまま。「細雪」に「王朝風の情緒」と言われても戸惑うばかり。さて次は、谷崎訳の源氏を読んでみようかと思った。(手塚)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：52
賛助会員：13
団体会員：4

入会金なし
年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円,
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしくお願いいたします。

会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。

みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

なんとなくのへや

人間を模した「何か」を作り出したい。それは人類がずっと昔から持っていた夢なのかもしれない。チャパックがその「何か」を戯曲でみごとに表現し「ロボット」という言葉が世に広まってから100年が経つ。1940年ごろのデジタル計算機の登場をきっかけに「意識を持つ機械」が現実味を帯びてきた。「鉄腕アトム」などマンガの影響もあったろう。「思考する電子回路による感情を持ち、自立行動が可能な人造人間=ロボット」というイメージがSFや文学のなかで定着してきた■カズオ・イシグロの最新作に登場する「クララ」でさえ、技術的背景は70年前に手塚治虫が構想した「アトム」とそう変わらない。そんなものが街中を歩くようになったらどうなるんだろうかとぼんやりと考えていたので「ChatGPT」を見てびっくりした。「生成AI」は膨大な高速計算機と記憶装置のネットワークに支えられ存在する。人間型の機械に収められた「電子頭脳」とはまったく別物である。その「知性」はインターネットサイトの書き込み、論文、画像、音声などの情報をくまなく収集し保管し整理し分析することによって成り立っている。ユーザが発した質問や反応も記録され保存され参考資料となる■この「AI」が稼働し続けるには巨大システムの維持管理が欠かせない。機械が自立して動いているわけではなく、背後に多くの人間による様々な形の労働がAIのもっともらしさを支えている。いままで想像していた「何か」とはまったく異なる「何か」がネットの中に出現したらしい。当分の間、「生成AI」は少し便利になった検索システムくらいに考えておこうと思う。(T)